

学校再編ニュース

《第16号》(平成29年11月8日発行)



《発行》小樽市教育委員会(適正配置担当)
電話 0134-32-4111(内線 537)
FAX 0134-33-6608
Eメール gakko-tekisei@city.otaru.lg.jp

～ 市民の皆さんの御理解と御協力により学校再編を進めています ～

1 北陵中学校が開校しました

本年4月1日に、北山中学校と末広中学校が統合し北陵中学校が開校しました。4月6日の開校式では、学校長から校訓や教育目標が紹介されたほか、生徒の合唱により新しい校歌が披露されました。新たなスタートを切った北陵中学校では、統合を契機に「小樽の未来をつくる北陵生の育成」を目指して新たな学校づくりに取り組んでいます。



北陵中学校開校式「学校長挨拶」

＝ 新しい北陵中学校を紹介します！！ ＝

北陵中学校では、子どもたち自らが考え、自らの考えや思いを伝え、未来に向かって歩み始めるため、今より『よりよく』と願う子どもたちの心を大切にする教育活動を行うことを『校訓』にしました。

また、『教育目標』では、子どもたちが主体的に社会を生き抜くための基礎となる力を育むことを掲げています。

校訓 『よりよく創る』
教育目標『小樽の未来をつくる 北陵生の育成』
◎深く学び、考え、表現できる生徒
◎豊かに人とつながり、思いやりのある生徒
◎たくましく心身を鍛え、自らを律する生徒

《めざす学校・生徒・教職員の姿》

～小樽の未来をつくるのは子どもたちです。北陵中学校は、地域、保護者、学校がそれぞれの役割を担いながら、世界に羽ばたく子どもたちを育てる取組を進めます。～



ダニーデン市
少年少女使節団と交流

「信頼」される学校

- 生徒の学びを大切にする学校
(よりよい授業づくり)
- 人が大切にされる温かな学校
(よりよい学級づくり)
- 地域に感謝し、貢献する誠実な学校(よりよい地域づくり)

「自信」を持った生徒

- 自らの学びを大切にする生徒
(授業と家庭学習)
- 仲間を大切にする生徒
(学級、行事、部活)
- 家族、地域に感謝できる生徒
(親子の会話、地域行事)

「信念」を貫く教職員

- 共通の実践をする教職員
(5つの指導の柱)
- 礼節を重んじる教職員
(率先垂範の姿勢)
- 話し合い、学び合い、目標に向かって努力する教職員
(研修の充実)

開校後の取組を紹介します。

北陵中学校では、基礎学力の向上をはじめ、本市の教育活動の方向性を踏まえながら、次の「3つの教育」を特色ある教育として掲げています。4月以降の取組を一部紹介します！！

1 英語教育

- ・修学旅行でカナダ、ナイジェリア、インド、フィジー、スーダンの大使館を見学。(5月)
- ・姉妹都市ダニーデン市少年少女使節団と交流。(7月)

2 ふるさと教育

- ・市指定無形民俗文化財「高島越後盆踊り講座」の開催。(7月)
- ・ふるさと小樽の夏の風物詩「潮ねりこみ」へ参加。(7月)

3 命の教育

- ・保健所職員による「性教育講座」の開催。(7月)
- ・栄養教諭と家庭科教諭のチームティーチング(※)による「食育講座」の開催。(9月)

※チーム・ティーチングとは、複数の教員が役割分担し、協力しつつ、授業を行う方式のことです。

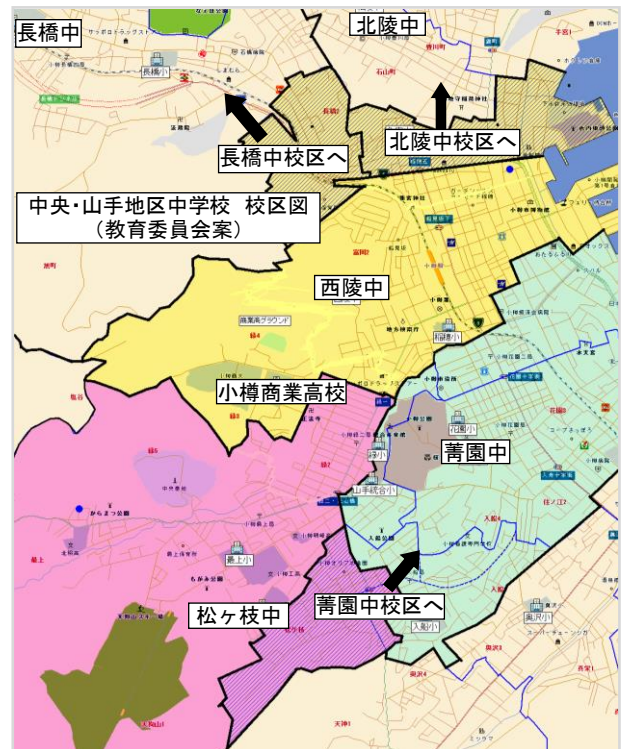
2 中央・山手地区の中学校の再編について説明を行いました

緑小学校(2/10・20・21・22) 入船小学校(2/20・21・22) 最上小学校(2/28 3/1・2) 稲穂小学校(3/2・3・13)

西陵中学校と松ヶ枝中学校に關係する小学校の保護者会に伺い、両校の再編に関する教育委員会案の説明を行いました。教育委員会の説明内容と保護者からの質問や意見等を紹介しします。

《 教育委員会からの説明内容 》

- 中央・山手地区の中学校は現在の3校（西陵中学校、菁園中学校、松ヶ枝中学校）を2校に再編し、2校のうち1校は菁園中学校、もう1校は西陵中学校と松ヶ枝中学校の統合校とすること。
- 両校の校区境界付近にあり、恵まれた教育環境にあることから、小樽商業高校閉校後の学校施設を両校の統合校とすること。
- 再編時期については、平成32年3月末の小樽商業高校閉校後、1年間で中学校として必要な教科の教室等の改修を行い統合校を開校すること。
- 隣接校との校区調整について、西陵中学校区のうち、旧色内小学校区の一部を長橋中学校と北陵中学校の校区とし、松ヶ枝中学校区のうち、現入船小学校区を菁園中学校の校区とすること。
- 小樽商業高校の現グラウンドは校舎敷地から約320m離れた場所にあることから、統合中学校では新たに校舎敷地内に約4,900㎡のグラウンドを設置すること。



《 保護者からの質問や意見等(一部)を紹介しします 》

- ◆ 今後、子どもの数が増加するとは考えにくく現在も部活動に制約があると聞いている。今後更に子どもの数が減少すれば、学級数、教員数も減り、子どもたちの学力にも影響が出るかもしれない。西陵中学校と松ヶ枝中学校を統合し、より良い環境で学ばせてあげてほしいとの意見がありました。
- ◆ 西陵中学校も松ヶ枝中学校も生徒数が減少していき、学級数で教員数が決定されるのであれば統合は必要。統合校の場所は両校の間にある小樽商業高校が良いとの意見がありました。
- ◆ 閉校後の最上小学校を統合校にするという話が以前あったが、小樽商業高校のグラウンド整備でお金を使うより良いのではないかと質問があり、以前、閉校後の最上小学校を統合校とする案もありましたが、小樽商業高校が閉校することとなり、西陵中学校と松ヶ枝中学校の校区境界付近にあって両校の生徒が通学しやすいことや、小樽商科大学が近くにあることから連携が図れるなど、総合的に勘案して現在の案となったことを説明しました。
- ◆ 小樽商業高校は小樽商科大学に近接するなど恵まれた教育環境にあると説明があったが、どう恵まれているのか。冬期間の坂は上り下りも大変で、小樽商業高校での統合に反対との意見があり、小樽商科大学と近接することによる恵まれた教育環境とは、大学と協議していくこととなりますが、中学生が大学に行き図書館などの大学施設を活用することや大学教員による中学校での指導、大学生による放課後学習指導や部活動での交流など、移動距離が近いことから他の中学校にはない新たな取組の検討が可能であると考えていることを説明しました。
- ◆ グラウンド設置費用に1億5千万円かけるなら西陵中学校を改築すべき、小樽商業高校を使用する場合と西陵中学校を改築した場合、教員を雇う場合、それぞれ見積りを出し、話を進めるべきとの意見があり、小樽商業高校を使用する場合の費用については、北海道教育委員会が小樽商業高校の生徒募集停止後に、閉校後の施設の跡利用を検討すると聞いており、今後の検討となりますが、算出していきたいと考えていること、教員の人件費は国と北海道の負担であり、市が教員の人件費を負担することは難しいことを説明しました。

- ◆ 西陵中学校を閉校し松ヶ枝中学校と統合するとのことだが、理由は何かとの質問があり、中央・山手地区の中学校3校の学校規模を推計すると、将来、小規模化が進むため、統合により3校を2校とし学校規模を確保する考えで、学校の位置や施設の状態から菁園中学校と閉校後の小樽商業高校を統合校とする考えであることを説明しました。
- ◆ 同一地区内で段階的な実施となる場合は、生徒が統廃合を繰り返して経験することのないような間隔にするとある。西陵中学校がなくなると、2度統合を経験することになるがどのように考えているかとの質問があり、再編時期については、生徒数の推計や地域の学校施設の状況を総合的に判断し提示していることを説明しました。
- ◆ 小学校の統廃合では親も子どもも心理的にきついものがあったので、もう一度経験するのは親も子どもも負担との意見がありました。
- ◆ 統合により一番大変な思いをする子どもをどうフォローするのか不安。子どもの気持ちを考えてほしいとの意見があり、統合後の環境の変化による生徒の不安や戸惑いに対処するため、統合前の事前交流や統合後のスクールカウンセラー活用によるケアなどにより、教育委員会と学校が連携して負担を軽減していく考えであることを説明しました。
- ◆ 統合の際、在校生に指定校変更の特例はあるのかとの質問があり、校区を分けて複数の学校と統合する場合は、在校生に指定校変更の特例を設けていることを説明しました。
- ◆ 中学校に進学後、統合になると、思春期で受験の大事な時期に環境が変わることになるので、最初から統合する中学校に入学することはできないのかとの質問があり、再編の時期は早くて平成33年度からと想定しており、それまでにどういった指定校変更の特例を行うのか、また統合年度からでなく、事前に校区を定めて再編をするのかについて、これから検討していくことを説明しました。
(紙面の都合上、質問や意見等は一部を掲載しています。詳細は市のホームページをご覧ください。)

3 平成30年4月の統合に向けて

平成30年4月の統合に向けて、地区ごとに関係校の保護者や学校、地域の代表などを構成メンバーとする3つの統合協議会が円滑な統合に向けて協議を重ねています。なお、入船小学校は通学区域が3つに分かれて統合となります。

(1) 花園小学校・入船小学校統合協議会

統合校の「教育目標」や「めざす子どもの姿」などを決定するとともに、隣接する菁園中学校と連携し、小学校6年間、中学校3年間の9年間を通して子どもを育てることや、家庭、学校、地域で子どもを支える基本構想をまとめています。このほか、統合に伴う新たな通学路について現地確認を実施しました。



統合協議会の様子
(花園小学校視聴覚室)

現在、新しい学校づくりに向けて教育課程の協議を進めるとともに、通学の安全対策として通学安全マップの作成に取り組んでいます。

《統合花園小学校の教育目標及びめざす子どもの姿》

教育目標 笑顔いっぱい！ いのちがやけ 花園の子	めざす子どもの姿			
	確かな学力・豊かな心・健やかな体・地域との連携・教育環境の活用			
	いのち	か	んがえる子	自ら進んで学び、考え判断し、行動できる子ども
		が	んばる子	自分のめあてにチャレンジし、成長する子ども
		や	さしい子	互いのよさを認め合い助け合う子ども
け		んこうな子	自他の命を尊重し、健康や安全に気をつける子ども	

(2) 緑小学校・最上小学校・入船小学校統合協議会

統合校である山の手小学校の「教育目標」などを決定したほか、校歌及び校章のデザインを選定しました。また、「共に育つ学校」を新しい学校づくりの基本方針とし、その実現に向けた学校、地域、家庭の具体的取組をまとめました。このほか、建設中の山の手小学校への通学路について現地確認を実施し、現在、通学安全マップの作成に取り組んでいます。



統合協議会の様子
(緑小学校図書室)

《山の手小学校の教育目標及び目指す子どもの姿》

■教育目標■

3つの『合い』で未来を拓く山の手の子

●すすんで 学び合い ●ゆたかに ひびき合い ●たくましく きたえ合い

※「共に育つ学校」という基本方針のもと、「学び合い」「ひびき合い」「きたえ合い」の3つの『合い』を大切に、複雑で予測困難な時代の中で、夢や目標に向かって自分の未来を切り拓く力を育てる

■目指す子どもの姿■

【知】自ら進んで 生き生きと 学び続ける子
 【徳】礼儀正しく あいさつが しっかり出来る子
 【体】元気いっぱい たくましい 心と体をつくる子

《山の手小学校の校歌》

1番 港をわたる そよ風に
 光はずむ 朝の窓
 元気な笑顔 交わしあい
 進んで学び のびてゆく
 みんなの みんなの
 山の手小学校

2番 四季をいろどる 於古堯の
 しぶき明るく 澄む流れ
 ともに手を取り 助けあい
 やさしい心 そだてゆく
 きらめく きらめく
 山の手小学校

3番 天狗のみねに みまもられ
 夢はふくらむ 青い空
 体をきたえ 礼尽くし
 はるかな未来 めざしゆく
 はばたく はばたく
 山の手小学校

【作詞者】 朝倉 修さん

【作曲者】 藤嶋 美穂さん

～歌詞への想い～

小樽の港、於古堯川、天狗山など、山の手小学校の豊かな環境を題材に、山の手小学校の子どもたちが、力強く学び、夢を広げ、理想も高く、未来へ向かい励んでほしいという思いを込めました。

《山の手小学校の校章デザイン》



【制作者】 居関 孝男さん

～デザインの意味やモチーフなど～

黄緑色で「山の手小学校」の「山・手」、その中心部に緑で小樽と小学校の「小」を配して描きました。三本の三角形の山で統合する三校、その組み合わせで天狗山、下部の「手」で校区の拡がりとしぼりつつ頂上へ上る児童の姿をイメージ、重なりから地域・学校・家庭の連携、全体から大地に根を張る大木（特に市の木であるシラカンバ）を表しました。

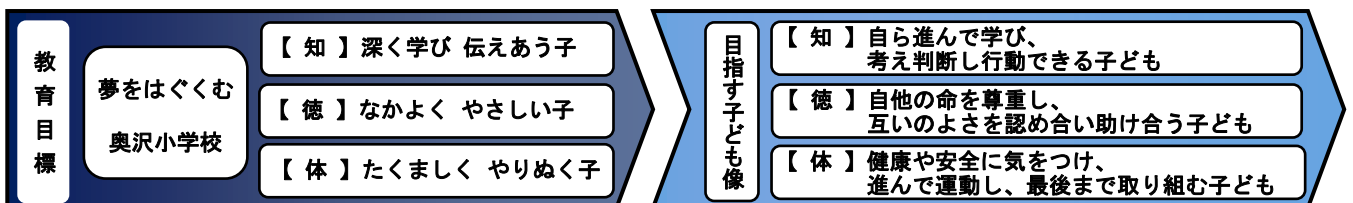
(3)入船小学校・奥沢小学校・天神小学校統合協議会

新しい学校づくりに向けて、「教育目標」や「めざす子ども像」などを決定しました。知・徳・体のバランスの取れた人間形成を目指すとともに、統合校では、全ての教育活動の基となる健やかな体の育成と地域の教育資源を活用したキャリア教育などを特色ある教育として進めていきます。このほか、通学の安全対策として、統合校への新たな通学路について現地確認を実施し、現在、通学安全マップの作成に取り組んでいます。



統合協議会の様子
 (奥沢小学校図書室)

《統合奥沢小学校の教育目標及び目指す子ども像》



4 児童の事前交流 ～統合後の学校生活に向けて～

平成30年4月の統合時に、円滑に学校生活が始まるよう関係校ごとに児童の事前交流を行います。その一部を紹介します。



花園小体育館に両校が集まって交流
 (花園小・入船小1・2年生)



平磯公園へ3校が合同遠足
 (入船小・奥沢小・天神小3・4年生)



入船小体育館に3校が集まって音読で交流
 (緑小・最上小・入船小5年生)